

●5/10(金) 会場2 + オンライン2 = 4名

- 1、希望していない妊娠も多く、受け入れられる体制づくりも必要。
- 2、お腹の中の赤ちゃんにも声は聞こえている。妊婦も周りも不安を感じさせないよう言動には注意すべき。
- 3、妊娠前からの教育も大切であり、しっかり行っていく必要あり。
- 4、親のイライラ感は子どもも感じている。親への支援が必要。
- 5、大人の「安全基地」（安全と感じる居場所）も必要。大人が安心していないと子どもへ連鎖する。
- 6、大人の幸福感＝子どもの幸福となる。
- 7、「子どもの権利」への認識に差がある。小さい時からの教育が課題である。
- 8、不安を感じながら育っている子に対し、安心できるベースを、親、家庭、地域、行政それぞれが考える。
- 9、大人の都合の中で育ってきている。大人は子どものときの自分に戻って対応するとよい。
- 10、すべての子どもに目を向けて欲しい。
- 11、さまざま情報が多い中、きちんとしたことを伝えられる親、また町になって欲しい。
- 12、多くの人に「子どもの権利」を伝えていくことが大切。
- 13、「教えるから引き出す授業」へと変わってきている様子は感じるが、それを全校で共有して欲しい。
- 14、幼・小・中とつなげることが大切だが難しい。システムとしてつながることを望む。
- 15、主権者（主体的）として自分を捉えられる教育が小さい時から必要。
- 16、妊婦や子どもを支援することは理由は必要なく絶対条件であり共有すべき。
- 17、「子どもの声を聴く」としても本音は言わない。遊んでいる場や本気になっている場へ出向くことが大切。
- 18、幼・保ともに人手不足でいっぱいなのが現実であり、負担が大きすぎる。
- 19、「赤ちゃんから」のテーマに興味を持ち参加した。

●5/11(土) 会場のみ3名

- 20、子どもを取り巻く環境を、まずは現状を知ることが大切。
- 21、どんな形にすればよいのか？と、権利条例検討が、一度立ち止まり考えるきっかけとなると良い。
- 22、大人が理解しないと条例が制定されても活用されない。どう機能させるかが大切。
- 23、子育てはイライラするもの。まずは自分を知ることが必要。
- 24、苦手だ！とする自分を知ること。
- 25、一人一人の子にも特性がある。それを知ること。
- 26、思春期、反抗期を向かえた子どもへの対応が難しい。殻に閉じ込まり和に入れないのは心配。
- 27、月一回定期的に相談会を行っているので、悩みを持つ親ほか色々な立場の方にも参加して欲しい。
- 28、教員や保護者向け研修会など、一色小学校だけでなく町全体で行ってほしい。
- 29、さまざまな子育ての悩みへの相談できる環境を充実して欲しい。
- 30、先生の努力はすごく、そういう部分は認めるべき。
- 31、先生によって指導や気持ちに温度差があり、子どものプレッシャーにもつながっている。
- 32、先生も時には「はらっぱベース」を見て来て欲しい。
- 33、先生も思いやりがあるならばアクションで示して欲しい。
- 34、先生は一生懸命だがとても忙しく個別で学ぶことは厳しい。予算を確保し行政が研修会等増やすべき。
- 35、先生ができないところは地域や行政と一緒に考えていきたい。
- 36、日頃先生とじっくり話すことはお互い難しいが、話せば理解し合えることも多いと思う。

37、少数意見をくみ取れるような先生を期待するが、多忙であり時間が取れないのだろうか。